

定家の
もたらしたもの

定家の築いた「古典」とは

■パネリスト■

伊井春樹 「阪急文化財団逸翁美術館館長・大阪大学名誉教授」

『源氏物語』の本文と書写活動と

浅田徹 「お茶の水女子大学教授」

書き入れ注記から見る定家の古典観

杉本まゆ子 「宮内庁書陵部文書研究官」

古今伝受に見る定家

コーディネーター ● 高野晴代 「日本女子大学教授」

二〇一六年 三月十一日「土」

午後二時～午後五時三〇分（終了予定）

日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館

国際交流センター大会議室

〔開場午後一時三〇分／入場無料／事前申し込み不要〕

問い合わせ先 ● 日本女子大学文学部日本文学科

TEL 03-5998-1335

FAX 03-5998-1332

〔写真〕『新古今和歌集』『御案抄』『源氏物語』『小倉山庄色紙和歌』

いずれも日本女子大学蔵

定家の
もたらしたもの

定家の築いた「古典」とは



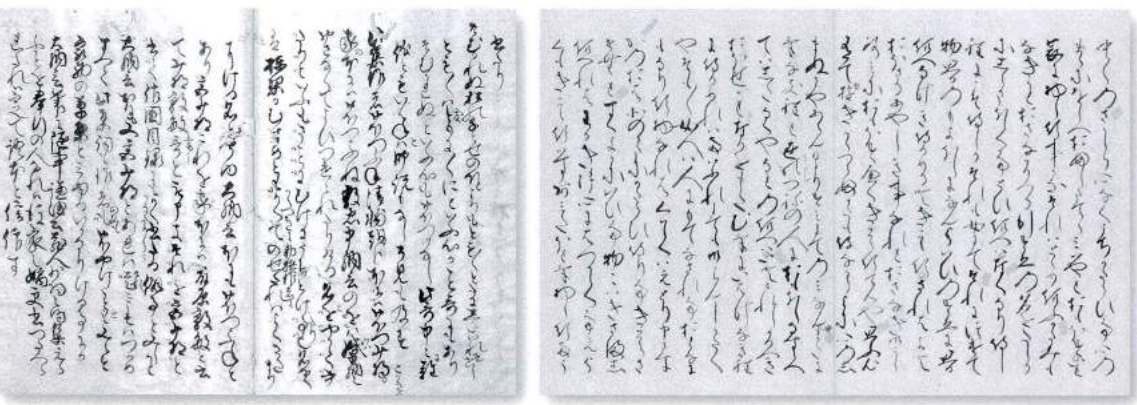
二〇一六年 三月 十一日 [土]
午後二時〜午後五時三〇分(終了予定)
[開場 午後一時三〇分]
日本女子大学 目白キャンパス
新泉山館 国際交流センター大会議室

事前申し込み不要
入場無料

日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画「定家のもたらしたもの」は、二〇一四年三月に第一回「継承と変容」、二〇一五年三月に第二回「文字と仮名遣い」として開かれた。本シンポジウムはそれらに続き、第三回「定家のもたらしたもの―定家の築いた「古典」とは―」と題し、二〇一六年三月に開催する。なお今回が本シリーズの最終企画となる。

近代以前の日本において、文学は『古今集』『伊勢物語』『源氏物語』といった「古典」を絶対的な前提としたうえで、オリジナリティを作り出すものであった。その「古典」の成立に際し、定家はさまざまな側面で重要な役割を果たしている。定家から今までおよそ八〇〇年、その「古典」を受け継ぎ、読み解き、そして新たな創作が行われてきたという点で、定家の築いた「古典」はきわめて現代的課題と言える。

本シンポジウムでは、『源氏物語』の書写による本文の提供、詠歌において依拠すべき「古典」の提示とその理解、さらには定家の教えそのものの神格化するかわち古典化について考えることにより、定家を軸にすえて「古典」の成立と展開を明らかにしたい。

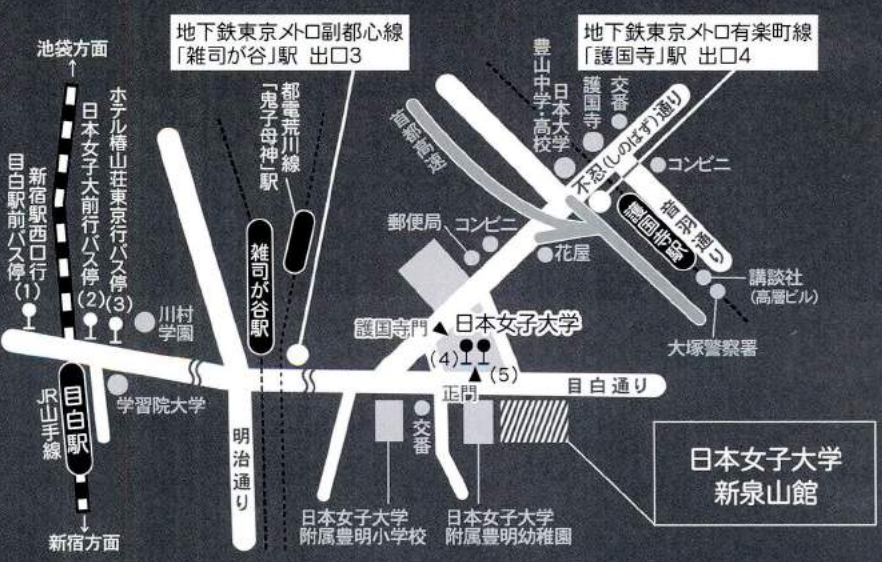


[写真] 上段右「新古今和歌集」/上段左「小倉山庄色紙和歌」/下段右「源氏物語」/下段左「僻案抄」 いずれも日本女子大学蔵

日本女子大学 目白キャンパス 新泉山館 国際交流センター大会議室

日本女子大学 目白キャンパス
東京都文京区目白台2-8-1 03-3943-3131 (代表)

- アクセス**
- JR山手線 目白駅から 徒歩 約15分 / バス 約5分
 - 都営バス(学05)「日本女子大前」行(直行)「目白駅前」(2)乗車 「日本女子大前」(4)下車
 - 都営バス(白61)「新宿駅西口」行または「ホテル椿山荘東京」行「目白駅前」(1・3)乗車 「日本女子大前」(5)下車
 - 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅(3番出口) 徒歩 約8分
 - 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅(4番出口) 徒歩 約10分



日本女子大学
新泉山館